

特集

定年後のさまざまな生き方

生涯学習のすすめ

人生八十年時代を迎えて、定年後の二十年間をどう過ごすかは、いまや大きな問題です。

定年後の時間は“余暇”とか“余生”という言葉で括る事は適当ではありません。しかも団塊の世代が大量に定年を迎えています。

余暇は社会の生産が向上したことによって得られた、余った“暇”ではありません。産業革命の時代に労働時間の短縮を求める労働者の運動から勝ち取られたものです。したがってそれは資本からの自由を確保した時間であり、自由と自立のために自分で利用できる時間を意味しています。

世界人権宣言は「学問・芸術の成果を享受する権利及び『自由に社会の文化生活に参加する権利』（二七条）と規定しています。

日本の生涯学習は高度経済成長期には、公共的、共同的性格が強く見られましたが、現在では個人的性格が強まり、学習者の主体性が強められてきています。しかし今日の日本の文化状況は、労働時間の延長で余暇の時間が狭められています。その上で商業的傾向が強められて、画一的、コピー的性格の文化が氾濫して、文化的環境が悪化しています。

このような状況の中で、定年後の豊かな生活とはどのようなものなのか考えてみました。

会員の皆さんを中心に、定年後の生涯学習のありようをお聞きしました。定年後のさまざまな生涯学習のあり方が、私たちの生き方に参考になると思います。

(編集部)